

平成 29 年度博物館協議会議事録（要旨）

（平成 29 年 11 月 15 日修正）

1 概 要

日 時：平成 29 年 10 月 5 日（木）10:00～12:00

場 所：北九州市立自然史・歴史博物館 会議室

出席者：委 員：伊澤会長、木村副会長、井上委員、岩松委員、緒方委員、染川委員、
富田委員、丸山委員、三島委員（欠席：近藤委員）

博物館：上田館長、山家副館長、井上普及課長、松井歴史課長、真鍋自然史課
長ほか

議 題： 1 平成 28 年度事業実績（博物館年報）について

ア 概要

イ 特別展開催実績

・ 関門幕末維新伝

・ 発掘された日本列島 2016

・ ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～

ウ 東アジア友好博物館交流事業

エ ジオパーク活動推進事業

オ 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

2 平成 29 年度事業計画について

ア 概要

イ 特別展開催計画

・ 大昆虫博

・ 最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真展～家康に「鬼孫」と呼ば
れた男～

・ (仮) アクア・キングダムー還ってきたスピノサウルスー

・ (仮) Bones～骨、ほね、ホネ～

ウ 開館 15 周年記念イベント

エ 東アジア友好博物館交流事業

オ ジオパーク活動推進事業

- 真鍋自然史課長より進行がなされた。
- 上田館長、各委員、博物館職員より挨拶があった。
- 会長、副会長の選任結果の報告があり、伊澤会長、木村副会長より挨拶があった。
- 伊澤会長の司会により議事が進められた。
- 博物館より議題 1、議題 2 について説明がなされた。

2 各委員による意見と質疑応答 ○委員 ●博物館

- 小学校のカリキュラムと展示物をつなげた資料があると理科や社会科と連携しやすい。
- 小学校や中学校の理科、社会と関連して、「博物館利用の手引き」を作成し、北九州市内の各小中学校に配布している。また、ホームページに掲載し、全国から来館される小中学校の参考にしていただいている。内容は指導案形式を取り、北九州の小学校、中学校の先生方に協力いただいて作成したものである。
- 今度、新しい学習指導要領ができるから、それに合わせた改訂版を考える必要がある。
- 新しい学習指導要領に合わせてどのような形で変更ができるか検討している。
- 「博物館利用の手引き」が、学校に十分にまだ知られていない部分があるので、もう1回、宣伝が必要かもしれない。
- 学校現場では、はっきり言って活用されていない。広報の仕方もあると思う。入館者のうち小中学校の割合の落ち込みが心配である。先生方がこの博物館に何回も通って、見どころ等の会話が授業の中に入ってくると、土、日に保護者と一緒に子どもたちが行って、また話題になる。先生方の勉強会を行い、利用の手引きの活用や改善について意見を出したり宣伝したりしてくれる先生が増えると良い。小中学校の先生が職員証を提示すれば、無料で博物館に入れると良い。学校や教育委員会とタイアップし、先生方が自由にここに来て勉強できるような体制ができれば変わると思う。
- 地域に対してはどうか。市民センターや、まちづくりのグループ等に、具体的に呼び掛けはあるのか。
- 市民センターの方々から講座の依頼等をいただいた場合、出向いてお話を差し上げるケースはあるが、特別展のチラシを配布・掲示してもらおうということくらいしか、今のところできていない。
- 特別展のチラシを持っていくときに、市民センターで講座等を行うと、より分かりやすいと思う。小学生や中学生だけではなくて、もっと大人にも呼びかけると、親御さんたちが興味を持って子どもたちを引っ張ってくる。そういう仕組みは、違った集客のきっかけになる。
- 市民センターに関して、家庭教育学級での活用の案内を出して、PRしている。
- 市民センターの方が特別展の内容に興味があり、今度話をしてもらおうと企画してくれれば良いが、実際は、詳しくないと内容が分からないまま企画するのは難しい。
- 歴史系では、穴生学舎とか周望学舎に講座で呼ばれるが、市民センターは、今136カ所もあるため、やり出すと、我々の人数では、現実には不可能となる。穴生学舎、周望学舎でも、一度行くと毎年という話になり、現実的には対応できないところもある。
- ピンポイントで今回は枝光南に呼び掛けてみようとか、今回は西に呼び掛けてみようとか、そのような対応で良いと思う。
- 地域の歴史に関わる展示会の際、来て話をして欲しいという依頼があり、その後に来館して展覧会を見るというのが、年に2、3件ある。そのような依頼を大切にしながら、もう少し何ができるかを模索する必要がある。
- 依頼があったときに、効果は目には見えないだろうが、どのような感じか。
- お話しさせていただいて、来ていただくことで、やはりすごく自分の地元の歴史だっ

たり、それを少し広げたものを見ていただくという手応えはあるが、それがどのくらい継続性があったり広がりを持つかというのは、まだまだ考えないといけない。

- すぐに効果は出なくても、地道に続けていくべきだ。
- 地域に限らず、例えば特別展であれば、どこから来られた団体でも、事前に要請があれば、担当者が全体を説明するとか、そういうことはずっとやっている。
- 入館者数の推移とか各事業の実施状況は、すごいと思うが、そもそも、どういうふうな状態が理想的だと考えているのか。例えばもっと高校、大学生の人数を上げたいとか、小中学生の人数の割合を上げたいとかあると思う。では、各世代が万遍ないパーセンテージになれば良いのか。右肩上がりが入館者数がキープできれば良いのかもしいれないし、予算が付きやすいかもしれないが、本当にそれが目指すところなのか、どういう達成目標があれば一息つけるのか。そもそも、どうあるべきなのだろうか。
- 自然史系博物館館長会議でもいつも出てくるが、いったい博物館に与えられている目標は何なのか。右肩上がりでなかったら駄目だという烙印が押し続けられて、なかなかそこに良い解決策がない。常に前年度比になる。それがなかなか苦しい状況になっている。博物館に対してそういう発言があったときに、さて、一体我々の目指す目標は何なのか分からなくなる。
- 館の理念を拝見したときに、すごく分かりやすくシンプルで良いと思ったが、何を目指して「自然と人間の関わりを考える共生博物館」であろうとしているのか。
- 普通博物館ができて10年、15年たつと、だんだん入館者が下がってくるものだが、ここは右肩上がりで、特別展の入場者数もずっと増えてきている。それはそれで良いのだが、特別展が年に4回はちょっと多いと思う。それをやる担当者の順番や、そもそも企画は、どういうふうにして誰が決めているのかというあたりを聞きたい。
- 館の中に特別展会議のグループがあり、そこで数年先まで検討している。特別展に合う担当者が決まるので、自然史では、夏の一番お客さんが多い展示会に関しては、担当者が固定してしまう。夏以外に関しては、ある程度フレキシブルに、実験的な展示ができるようなことも考えている。
- やはり、人気のありそうな分野を扱っている人たちに偏りは生じるか。
- 正直に言って、偏りはある。
- 訪日旅行者の消費拡大が政府の大きな目標で、博物館界にも入ってきている。そのうち学芸員のポストが観光や世界遺産などを学んだ人に変わっていく可能性があると思っている。その流れに対して、博物館業務がこれだけ大事なのだということが、この資料（年報）を見たら分かるので、すごく良いと思う。また、企画展が楽しそうで、小学生が飛ぶために必要な羽根のサイズなどの工夫が良い。これからの話だと、骨の企画展で、ハンズオンで骨の重さというのがあったが、観覧しながら、自分の骨の働きと、その骨が比べられるような展示とか、もう一步踏み込んだ面白い工夫があると良い。
- 訪日外国人に関しては、博物館展示の多言語化という話があった。
- 多言語化は、予算も単年度で付けられて簡単に思われるが、訳すだけの話ではないので、本当はうまくいかない。
- この1年間の業績を見て、驚異的な仕事量だと思うが、現在、各領域に1人という担

当領域が広い設定になっている。これから強化したいとか、埋めていきたい分野とかはあるのか。それと関連して、今、大学も地域に出て、実際に活動しながら学びたいという意欲を持っている大学はあるので、こちらの分野にはない学部・学科の力を共有できるシステムがあったら良いと思う。そういった点で連携したいというプランがあったら聞きたい。

- 人数を増やしたいが、今、北九州市は職員が大幅に削減されており、とりあえず学芸員だけは現状維持できている状況である。大学の先生と連携して、当館に足りない分野をその先生で補うとか、いろいろ検討しているが実現はしていない。ただ、いろいろな研究者と各学芸員とのパイプという形で連携させていただいていることはあるが、館全体としてはまだ動いていない。
- 北九州周辺は理学部が非常に薄い。大学側から博物館と何かをしたいという話はすごくあるが、ただ迷惑になるかもしれない。博物館のほうから各大学に情報を発信していただくありがたい。
- これから連携して中身を濃くしていく方法がないか、ぜひ検討したい。
- 昭和の古き良き景色がなくなって、建築物とか構造物なら資料は残っているが、生活に関わるものは残っていない。いのちのたび博物館に昭和の景色の展示があるので、こういうプロセスで今この町があってあなたたちが住んでいるということを次の世代の人たちに伝えられればと思う。生活の中に溶け込んでいる文化として存在していたものをもう一度見直して次につなげていってほしい。
- 自然史ゾーンにおける解説パネル類に、視認性を高める工夫が必要と思われる箇所がある。
- 今回、15周年記念のイベントをいろいろされているということだったが、多分次が20周年と思う。20周年に向けた計画というのは何か議論は始められているのか。
- 開館15年たち、かなり施設の不具合が出てきた。予算がどこまで取れるのかはさておき、1つは施設のメンテを重点的にやっていきたいと考えている。
- 若手を中心に中長期計画の検討はしている。20周年に向けては、これから少し具体的に、予算のことは抜きにして、ご意見も踏まえながら準備をしていこうと思っている。
- 学芸員が肉声で語るというのは重要だと思う。この博物館は家族にとって身近な場所になってきており、市民にとって学芸員は身近な人になってきている。身近なものを身近な人が伝えるというところに徹底するのは、今後の博物館運営の1つと思う。
- 直接お客さんに語るのにはインパクトがあると思うのだが、資料にあったように、学芸員の業務量が限界だと思う。ボランティアの人たちが台車を持って行って、そこで物を見せながら、お客さんに語るというのは、インパクトという意味では良いと思う。
- 資料の収集、保存方法というのが示されているが、データベース化や、その公開等、さらに検討しているところがあれば教えてほしい。
- 自然史課の数値は、資料を集めた数ではなくて、データベース化の数を示している。大体72万点くらいのうち11万がデータベース化しているだけという状況で、どんどんこれからデータベース化を進めて公開に向けてやっていかないといけない。
- 個人コレクションというのは、すさまじい数がある。時間はかかるが、まずはその寄贈資料のデータベース化を今やっておかないと、絶対社会資本にならない。

- 収蔵庫が経時的にどれくらい埋まっていって、あと何年の寿命というかフルになってしまうのか出してほしい。
- もう現実的にはフルになっている。入らないものが全部廊下に出ている状態である。
- 満杯だと新しい収蔵庫が必要と思うが、予算はともかく、近くに土地はあるのか。
- 土地は何かある。
- 土地が何かあるなら、あとはやはり予算の問題なのか。
- 前々からずっと要求していて、収蔵庫にすき間がないということも認識はされているが、なかなか予算的な裏付けがない。あとは、市の関連施設で、時々空き施設として出てくるところがあるが、距離的に離れていると単なる倉庫になってしまう。
- レガシー事業は、来年度の概算でも付いているのか。せっかくプラハに行ったので、この次、また別の所に行ってほしい。すごく良い資料になっている。
- 3階の奥にある屏風の展示の歴史系と生物系の解説がすごく良い。個々の屏風のキャプションが今までのキャプションと違って、何が描かれているかのキャプション、説明になっている。
- 今年、8月14、15日、とてつもない入館者が来て外までずっと並ばれた。当館では、なかなか入場制限ができない。もし、良いやり方があれば教えてほしい。
- 炎天下ではまずいということで、テントを張り、ミストをやっている館もある。
- 昆虫展の説明を見て思ったが、ベビーカーをそのまま会場内に持ち込んで回られているのか。ある館では、ベビーカーは全部入り口で預けて、子どもたちには歩かせるか、抱くかである。
- 乳幼児もいるのでベビーカーで入っていただいている。展示では、車いすが通れる幅は確保する。

3 その他

- 真鍋自然史課長より会議終了が宣言された。
- 閉会后、「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真展～家康に「鬼孫」と呼ばれた男～」の準備状況視察を行った。

(議事録要旨作成：御前明洋)